

平成21・22年度 研究成果実用化促進事業 事後評価結果一覧

課題名	地域農業研究・普及協議会			基礎成果名称	事業実施内容	所見	評価点 (22点満点)
	名称	研究実施機関	実用化支援機関				
1 ニュータイプ「食べやすいスイカ」安定栽培技術の確立	北村山地域農業研究・普及協議会	山形県農業総合研究センター園芸試験場 山形県村山総合支庁産業経済部 村山農業技術普及課産地研究室	北村山農業改良普及推進協議会すいか専門部会 (みちのく村山農業協同組合、各市町村担当、山形県村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課) みちのく村山農業協同組合すいか生産部会 尾花沢営農センター抑制部会	種なし果実の作出方法	基礎成果(農林水産省が行う委託研究等の成果(以下同じ))の「種なし果実の作出方法」を活用し、夏スイカのトップブランド「尾花沢すいか」の種なしスイカを安定的に生産する技術を確立・普及することにより、産地競争力の強化を図る。	研究は計画どおり順調に進行し、当初の目的も達成できている。現地での普及に向けた取組や、成果の需要拡大にまで結び付けている点は高く評価できる。また、技術解説書や成果の内容もよく整理できている。ただし、今後の普及拡大に向けて、コストや収益の試算について引き続き検討する必要がある。	16.80
2 局部温度制御によるイチゴ「雷峰」の周年生産技術	粟原地域農業研究・普及協議会	宮城県農業・園芸総合研究所	粟原農業改良普及センター 栗っこ農業協同組合 有限会社ファーム千葉	クラウン部冷却による四季成り性イチゴの連続出蕾性と果実肥大の向上	基礎成果の「クラウン部冷却による四季成り性イチゴの連続出蕾性と果実肥大の向上」を活用し、一季成り性品種「雷峰」の夏秋期の果実生産を安定化させることにより、年間を通した高品質のイチゴの安定供給を図る。	研究は計画どおり順調に進行し、当初の目的も達成できている。低コスト化に取り組み十分な成果が得られたことは評価できる。しかしながら、技術解説書は研究成果のデータが中心の記載となっており、配布対象を明確にし実践的に活用できる内容とする必要がある。	15.60
3 小麦「あやひかり」の黒節病感染を回避する種子生産技術の開発	三重県小麦健全種子供給体制確立地域農業研究・普及協議会	三重県農業研究所	三重県小麦協会 三重県中央農業改良普及センター 四日市鈴鹿地域農業改良普及センター 松阪地域農業改良普及センター 三重県農水商工部担い手室 三重県農水商工部農畜産室 三重県農水商工部科学技術・地域資源室 松阪農業協同組合 農事組合法人コスモス 独)農研機構 作物研究所	低アミロース小麦品種「あやひかり」の育成	基礎成果の「低アミロース小麦品種「あやひかり」の育成」を活用し、三重県では麺の粘弾性に優れた「あやひかり」を奨励品種とし、特産品の「伊勢うどん」の原料として利用してきたが、近年、あやひかりの生産現場で種子伝染性病害の黒節病が蔓延したため、種子の黒節病菌の保菌率を低減させる技術を確立することにより、健全種子の安定供給を図る。	黒節病の診断技術と防除システムの開発という観点では、十分な成果が得られている。技術解説書は対象を意識し、それぞれの役割に応じた内容を記載すべき。今後は、種子消毒時の農薬登録の問題解決を期待したい。	10.00
4 環境負荷低減型でn6/n3比に優れる低コスト牛肉生産技術の開発	茨城県常陸大宮地域農業研究・普及協議会	太陽油脂株式会社 茨城県畜産研究センター肉用牛研究所 京都大学農学研究科 株式会社ニチレイフレッシュ	茨城県北農林事務所常陸大宮地域農業改良普及センター 有限会社農業生産法人瑞穂農場	脂肪酸カルシウム給与による肥育牛からのメタン産生抑制	基礎成果の「脂肪酸カルシウム給与による肥育牛からのメタン産生抑制」を活用し、生産コストの検討、官能検査を実施し、肥育農家が導入可能な低コストで健康に良く、また、メタン排出量を抑制する環境に配慮した肉牛生産を図る。	学術的な研究としては評価できる点はあるが、波及効果や普及・実用化への道筋が不明確である。また、タイトルにあるように低コスト化が目的であれば、経費などのコスト試算をしっかりと実施しなければならない。	11.00
5 水田農業に立脚した肉牛生産モデルの構築	滋賀県持続型農畜産業研究・普及協議会	滋賀県畜産技術振興センター ヤンマー株式会社	(社)滋賀県畜産振興協会 グリーン近江農業協同組合 (有)日野アグリサポート 滋賀県農業技術振興センター 滋賀県東近江農業農村振興事務所 農産普及課	稲発酵粗飼料生産給与技術	基礎成果の「稲発酵粗飼料生産給与技術」を活用し、出穂期の水稻の収穫調整方法を確立することにより、飼料自給率を高め、肉牛生産の安定を図る。	研究段階の成果としては評価はできるが、普及に移すための体系化が不十分であるなど普及段階であるとは言い難い。また、技術解説書はポイントが不明確であるため、要点をまとめ、よりコンパクトにして作成すべき。併せて、栽培給与と技術の選択肢を増やすことが目的であるなら、他の既存技術とのメリット・デメリットを明確にして記載すべき。	12.20
6 高品質ミカン生産のためのフィールドサーバ利用技術の確立	三重南紀地域高品位カンキツ生産技術研究・普及協議会	三重大学大学院生物資源学研究所 三重県農業研究所紀南果樹研究室 NECシステムテクノロジー(株)システムテクノロジーラボラトリ	三重南紀農業協同組合 三重県紀州地域農業改良普及センター 一般社団法人ALFAE	フィールドサーバによる圃場環境計測	基礎成果の「フィールドサーバによる圃場環境計測」を活用し、簡単にわかりやすいフィールドサーバ用ソフトウェアを開発し、高品質なミカンの生産を図る。	研究は計画どおり順調に進行し、当初の目的も達成できている。普及・実用化を意識した取組内容が高く評価できる。今後の普及拡大を期待する。	17.40

注: 得点の凡例

- ① 研究計画が予定どおりに進捗したか(進捗性): 6点満点
- ② 発現した成果が投入された資金に見合ったものであったか(効率性): 3点満点
- ③ 成果を生むに十分な研究実施体制であったか(有効性): 3点満点
- ④ 生み出された成果が生産現場に確実に普及されたか(妥当性): 10点満点 ー合計22点満点